安吾賞とは生きざま賞である。

安吾賞

第九回

新潟市

Ango AWARDS 9TH

写真：荒木経惟

日本文化私観

安吾の覚悟

どうしても書かねばならぬこと、書く必要のあること、ただ、そのやむべからざる必要にのみ応じて、書きつくされなければならぬ。

桜の森の満開の下

安吾の純情

彼の手の下には降りつもった花びらばかりで、女の姿は掻き消えてただ幾つかの花びらになっていました。そして、その花びらを掻き分けようとした彼の手も彼の身体も延した時にはもはや消えていました。あとに花びらと、冷めたい虚空がはりつめているばかりでした。

堕落論

安吾の喝

堕ちる道を堕ちきることによって、自分自身を発見し、救わなければならない。政治による救いなどは上皮だけの愚にもつかない物である。

坂口安吾と草間彌生「トンネルと宇宙」

村上　龍（作家）

草間さんほど、安吾賞にふさわしい人はいないのではないか。とても似合っている。だが、二人は、「似合っている」のであって、「似ている」わけではない。作風も、人生観・世界観も、似ていない。そしてもちろんジェンダーも違う。

三島由紀夫は、坂口安吾について「トンネルを感じる」と書いている。曰く

「余計なものがなく、ガランとしてゐて、空っ風が吹きとほって、しかもそれが一方から二方への単純な通路であることは明白で、向う側には、夢のように明るい丸い遠景の光りが浮かんでいる（『坂口安吾全集・内容見本』）」

さすが三島、という安吾評であると思う。そして、草間さんは、三島が言う「トンネルの向こう側にある遠景の光り」のような存在ではないかとわたしは思う。安吾は、フランス語をはじめとして、ラテン語、サンスクリット語など、語学に秀でていたが、実際に日本の外を旅したわけではなかった。

翻って草間彌生は、一九六〇年代、ニューヨークのアートシーンの最前衛で、実験的な表現を続けた。その戦闘的な芸術活動は、現在の草間彌生のすべての創造の基盤となっている。日本的なものへの愛憎を抱きつつ、ニューヨーク、世界から、宇宙へと、モチーフの領域を広げた。

文学者も芸術家も、「生き延びるため」表現に向かう。その表現が、人生を凌駕することもある。今、安吾が生きていたら、草間彌生の作品群をどう見るだろうか。ひょっとしたら「生まれるのが早すぎた、うらやましい」と思うかも知れない。「トンネルの向こう側の光り」に触れて、『新・堕落論』を書くかも知れない。いずれにしろ、二人は、本当によく似合っている。

坂口安吾撮影：中村正也

第九回 安吾賞

2014

新潟市ゆかりの作家である坂口安吾は、文学をはじめ多くの分野において何事にも一生懸命に挑み続ける人であった。安吾の精神を具現し、さまざまな分野で挑戦し続けることにより、わたしたち日本人に喝を与えた個人または団体を表彰する「安吾賞」。挑戦者を応援する新潟市は、第９回の安吾賞受賞者として、前衛芸術家・小説家『草間彌生』氏を選出した。

新潟市長　篠田　昭

第９回安吾賞は、前衛芸術家で小説家の草間彌生さんに決定しました。

草間さんは、幼少より水玉と網目を用いた幻想的な絵画を制作。１９５７年単身渡米し、独創的な作品と活動はアート界に衝撃を与え前衛芸術家としての地位を築きました。１９７３年帰国後も全世界を飛び回り活躍中で、２０１２年には新潟市美術館でも展覧会を開催しました。絵画だけでなく、小説、詩集なども多数発表されています。

草間さんはさまざまなものを水玉で表現し、それを今も続けていらっしゃいます。一貫して同じものを作り続けるということはとても大切なことであり、どの作品を見てもその色使いなどから、一瞬にして草間彌生さんの作品だとわかります。作品のために生きているという、作品に特化したこの生きざまは、まさに挑戦者魂にあふれ、私たちに勇気や元気を与えてくれるという点で、安吾賞にふさわしいと思います。

また、新潟市にゆかりのある方にお贈りする新潟市特別賞は、アコーディオニストで作曲家のｃｏｂａさんを選ばせていただきました。

新潟市とのゆかりについては、３歳から14歳までを市内で過ごし、当時自宅近くで音感教育を研究している先生の教室に通われていました。そこで、音楽への興味を抱かれ、アコーディオンとともに人生を歩むきっかけとなりました。

高校卒業後イタリアに留学し、帰国後は、それまでのど自慢の伴奏楽器として知られていたアコーディオンを主役楽器にしたいとの思いで活動を開始。伴奏の仕事依頼は一切断ることで80％の仕事を失っても、自らの信念を貫き通して、今までのアコーディオンに対する概念を覆しました。世界的に活躍し、今尚アコーディオンで新しい音楽を追及し続ける姿勢は、新しい時代を切り開き、挑戦し続ける安吾の精神を具現しています。

新潟市は、これからも反骨と飽くなき挑戦者魂の安吾精神を発揮する「現代の安吾」に光を当て、安吾賞を広く発信してまいります。

選考委員長　三枝成彰

このたび、第９回安吾賞の選考が終わりました。今回も県の内外より、ほんとうに多数のご応募をいただきました。

選考の結果、今回の受賞者は前衛芸術家・小説家の草間彌生さんに決定いたしました。

草間さんは長野県のお生まれで、ご幼少より多くの絵画作品を描かれていたとのことですが、現在もその作品の重要な要素となっている水玉のモティーフは、そのころすでに見出されたものだそうです。

長じてからのち、１９５０年代の末に、単身でアメリカに渡られ、さまざまな作品を制作、一躍、先鋭的なアーティストとして世界から注目されます。

６０年代以降は、絵画・立体作品にとどまらず、街頭を芸術の舞台に変えてしまう数々の〝ハプニング〟でも、世界を驚かせました。

７３年にご帰国後は文筆活動も手がけられ、独創的な作品世界を展開しておられます。

今回、長年の芸術活動を通じ、一貫して世界平和を訴えておられる草間さんのご活動が坂口安吾の精神に通じるものと考え、第９回安吾賞をさしあげることとさせていただきました。

ご応募いただきました皆さんに、心より感謝申し上げます。

○安吾賞○

草間彌生

くさま・やよい
前衛芸術家・小説家

草間彌生 （C）YAYOI KUSAMA

草間彌生より

このたび、この栄えある賞のお話をいただき、私は坂口安吾さんの人生観とその生き様に共鳴を抱きました。また多くの方々が安吾さんに対する畏敬の念を抱いていることを知り、深く感動いたしました。

人生をかけて命がけで闘ってきた、前衛芸術家・草間彌生の足跡を、みなさんが見出し、共感してくださったことに深く謝意を述べさせていただきます。

私は幼少の頃よりたくさんの作品を描き、宇宙の神秘、人類への畏敬の念をもっと見出すことに心血を注いでまいりました。

この危機の時代において、もっとも人々が目覚めなくてはならないことは、全世界の人間への畏敬の念と生への賛美の志であります。

みなさん、宇宙からすべての水玉の命への偉大なる尊敬を切望すること、そして大いに手をつないで志をひとつにして、この混乱にみちた世界を人間らしく闘い、それぞれが世界の平和と愛に貢献するため、自分たちの努力をもって打ち立てていきましょう。

草間彌生からみなさまへのメッセージです。

いのちの奔流

水玉と網。無限の宇宙を旅するように作品が生まれてくる。絵画、ドローイング、小説、詩、インスタレーション、ファッション、そのどれもが渾然一体となって境目はなく、融通無碍の神性を帯び、全てが彼女の分身とも見える。

おそらく、彼女にとって作品は「創る」モノではなく、深い核心から「ほとばしり、生まれてくる」モノなのだろう。その混じり気のなさが、まがい物や理屈を蹴散らし視る者の意識下に一直線に突き刺さり、世界を魅了する。

比類なきその生きざまに敬意と限りない賛辞を表し、第9回安吾賞を贈ります。

1939
10歳頃

1939
無題（母の肖像）

1963
「集積」のソフトスカルプチャー作品と、NYにて

1994
「南瓜」と共に、福岡にて

2003
「花咲ける妻有」新潟県十日町市松代

2004
「ハーイ、コンニチワ!」と共に、東京・森美術館にて

2004
「再生の瞬間」

2009
「愛が花咲いたときの喜び」
(わが永遠の魂シリーズより)

2012
「わが永遠の魂」シリーズ作品と共に、
ロンドン・テートモダンにて

【草間彌生プロフィール】

前衛芸術家、小説家。長野県生まれ。
幼少より水玉と網目を用いた幻想的な絵画を制作。1957年単身渡米、独創的な作品と活動はアート界に衝撃を与え前衛芸術家としての地位を築く。1973年帰国後も全世界を飛び回り活躍中。小説、詩集なども多数発表。

1983年、小説「クリストファー男娼窟」で第10回野性時代新人文学賞受賞。1993年第45回ベニス・ビエンナーレに参加。2000年、第50回芸術選奨文部大臣賞、外務大臣表彰。2001年、朝日賞。2003年フランス芸術文化勲章オフィシェ、長野県知事表彰（学術芸術文化功労）。2004年、信毎賞。2006年、ライフタイム・アチーブメント賞（U.S.A.）、旭日小綬章、高松宮殿下記念世界文化賞。2009年、文化功労者顕彰。2012年アメリカン・アカデミー・オブ・アーツ＆レターズ会員。2012年〜2013年 スペイン・レイナ ソフィア美術館、フランス・ポンピドゥーセンター、イギリス・テートモダン、アメリカ・ホイットニー美術館で欧米巡回回顧展が開かれる。2013年より初のラテンアメリカでの回顧展巡回、アジア巡回個展が始まり、現在も各地を巡回中。

心からの感謝を

この度は、大変名誉な賞を頂戴し、感謝に堪えません。ひたすら物事の本質を問い、現代の安吾たれ…と叱咤激励を頂戴する特権を、皆さまに心から感謝申し上げます。

新潟から始まった音楽の旅

小学時代を過ごした新潟の地で、アコーディオンと出逢い、惚れ込みました。その時からこの楽器に貼付いた「伴奏楽器」というレッテルを変革する僕の旅が始まりました。或る物のソーシャルイメージを変えることは、その物の起源や生い立ちを学び、因果関係を悟り、掘り下げ、その本質をえぐり出し、革命を起こす行為です。新潟で始まった僕の旅は、1万キロ離れたアコーディオンの故郷イタリアに僕を誘い、そして世界へと繋げてくれました。

創造のための非常識

新しいものを創造することは、常識を好しとせず非常識を造り出すことです。しかしそのためにもオールドスクールを徹底的に学び、何が常識なのかを知ることが不可欠です。JSバッハ、ロッシーニ、武満徹、アストル・ピアソラ…。今ではスタンダードとされる天才たちの音楽は、みんな清々しい程に非常識で、僕に大きな影響を与えました。その彼らもまた、古典の達人でした。

安吾に倣う独立心

パイオニアはいつも非常識な存在です。しかしその中に確固たる必然性を有する者のみが、この非常識者としての権利を持つのだと思います。引き続き、必然的な奇跡を生み出し続けられたら、これに勝る喜びはありません。僕の第2の故郷、新潟で育まれた少年時代の冒険心を持ち続ける一人として、安吾の自由な独立心を実践します。

禁忌のベクトルの勝利

ソロ、伴奏、カバーという「してはならない」3つの誓いを永年自分に課して、ついにアコーディオンという楽器の芸術性を世の中に示した。

自らに負を課し、既成概念に立ち向かい、自分を信じて決してブレない生き方は膨大なエネルギーを要したに違いないが、目標を達成した現在、謹厳すぎたタブーを解禁し、アコーディオニストとしてさらに新しい世界に踏み出しているエネルギッシュな姿は、予定調和的な現代社会に向けて強いメッセージを放っているのではないだろうか。

音楽家としてスタートの地となった新潟市から、さらなる飛躍を願って、第9回安吾賞・新潟市特別賞を贈ります。

coba

こば
アコーディオニスト・作曲家

〈新潟市特別賞〉

2014.12.17 最新アルバムは通算 36 枚目にして初のカバー作品

Discography

2005

2006

2006

2008

2009

2010

2012

2013

【 cobaプロフィール 】

アコーディオニスト･作曲家。3才～14才まで新潟市で育つ。3歳から音感教育で音楽に接し、18歳でイタリアに留学。ヴェネツィアのルチアーノ・ファンチェルリ音楽院アコーディオン科を首席卒業。

1979年、アラッシオ国際アコーディオンコンクール第1位受賞。1980年、第30回C.M.A世界アコーディオンコンクール第1位受賞(東洋人初)。1989年、ヨーロッパツアー開始。1992年、ファーストアルバム「シチリアの月の下で」で日本レコード大賞特別賞受賞。1995 ～ 1997年、ビョークのワールドツアーに参加。1996年、フランスのFMステーション【RADIO NOVA】でアルバム「ROOTS?」が年間ベストアルバムに選出。1997年、イタリア、ヴェネト州ミラーノ市名誉市民賞受賞。1999年、音楽、芝居、ダンス、ライブ映像をミックスした実験イベント「テクノ キャバレー」をプロデュース。2001年、第24回日本アカデミー賞音楽賞優秀賞を受賞(映画「顔」阪本順治監督)。2006年、前代未聞のコラボレーションイベント「I & GLOBE = vs」をプロデュース。イタリアにて、世界で最も活躍するリード・アーティストに贈られる「voce d'oro ～金のリード賞～」を受賞。2009年、世界3大アコーディオニスト～夢の競演～東京にて世界初演。世界3大アコーディオニスト～夢の競演～イタリア公演。2011年、デビュー 20 周年を迎える。2014年、TFC55（東儀秀樹×古澤巌×coba）にてミニアルバムをリリース、全国ツアーを開催。沖縄県より「美ら島沖縄大使」に任命される。12月17日、自身初のカバーアルバム「cobacabada」をリリース。2015年1月～ 6月「coba tour 2015 cobacabada」を開催。世界60カ国以上にわたるcobaの演奏、作曲活動は今日も世界各地に熱烈なフォロアを生み続ける。

お祝いメッセージ

安吾賞の本質が明らかに。

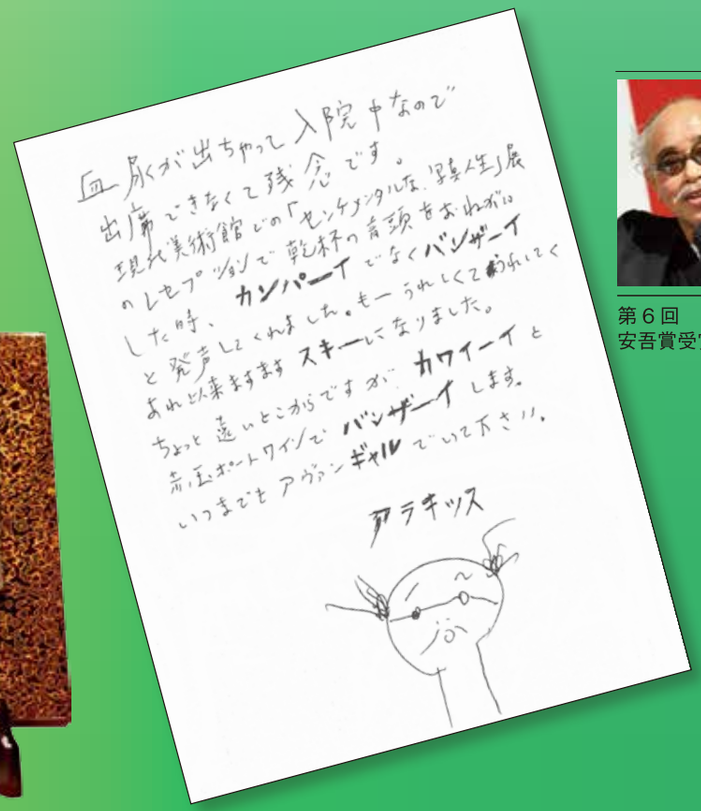
作家が安吾賞を頂くことを私はとてもうれしいです。安吾は社会的にも刺激的な発言をしましたが、本質はその生き方も含めて作家でしかなかったと思います。今回受賞された草間彌生さんはすばらしい才能の作家です。前衛芸術家として日本の女性の先駆者です。安吾も前衛芸術家でした。草間さんにこの度　安吾賞が贈られたことは、安吾賞の本質が明らかにされたようで私はとてもうれしく思います。草間さん、おめでとうございます。

▼瀬戸内 寂聴

第３回
安吾賞受賞

▼荒木 経惟

第６回
安吾賞受賞



血尿が出ちゃって入院中なので
出席できなくて残念です。
現代美術館どの「センチメンタルな写真展」
のレセプションで乾杯の音頭をおねがい
した時、カンパーイでなくバンザーイ
と発声してくれました。もーうれしくて動転してく
れ以来ますますスキーになりました。
ちょっと遠いところですが、カワイーイと
高原ボントワイン、でバンザーイします。
いつまでもアヴァンギャルでいて下さい。
アラキッス

第９回安吾賞
「盾」

Ango AWARDS 9TH

▼会田 誠

第８回
安吾賞受賞

人間社会のつまらないしがらみなど一顧だにせず、自我の欲望に限りなく正直な点で、草間さんは「安吾的」という形容を通り越し「超安吾的」と呼びたくなるような存在です。もはやアマテラスオオミカミ的というか……。永遠に生きてください。

▼村上 龍

草間さん、おめでとうございます。草間彌生と坂口安吾、本当に似合ってます。

2015年1月23日 授賞式に寄せて

授賞式

2015年1月23日
日本橋公会堂

Photo Report

授賞式チラシ

草間さんと coba さんをイメージした水玉とストライプのしつらいの舞台

晴天の冬晴れのもと、都内で行われた授賞式。残念ながら草間さんは体調不良のため欠席されましたが、草間エンタープライズ代表取締役・高倉功さんが代理としてお越しになり、草間さんからの「これからも良い作品をたくさん描き続けますので、許して下さい。」というメッセージをご披露いただきました。

草間さんの代理として篠田市長より賞状を受け取る高倉功さん（左）

新潟市特別賞の coba さん（左）

前列左より coba さん、髙倉功さん、後列左より三枝成彰選考委員長、篠田昭新潟市長、坂口綱男さん

記念ライブで渾身の演奏を披露してくれた coba さん

第九回
安吾賞

草間彌生 様

美しい水玉に愛と魂を込め
全身全霊で生命の尊さを伝えています
既成概念に縛られた人々を解放しようと
時に不眠不休で芸術に立ち向かい
時に奇抜な表現で世界に衝撃を与えてきました
それはまさに安吾と重なり合う生きざま
命がけで描ききるそのパワーに
心からの敬意を表し第九回安吾賞を贈ります

二〇一五年一月二三日
新潟市長　篠田　昭

Ango

第９回安吾賞賞状

［第９回］安吾賞音信

安吾賞市民交流事業
受賞記念展示
2015/2/17～24

選考委員会

2014 9/3

全国から推薦があった77件の個人・団体の中から選考が行われた。宣言書にある「権威におもねらず本質を提示するもの」「自らの信念を貫き挑戦し続けるもの」「日本人に勇気元気を与えるもの」を選考の基本としながら、白熱した議論が交わされ、第９回安吾賞は前衛芸術家・小説家の草間彌生さんに決まった。

記者会見

2014 12/26

「草間さんは幼少より水玉と網目を用いた幻想的な絵画を制作。１９５７年単身渡米し、独創的な作品と活動はアート界に衝撃を与え前衛芸術家としての地位を築いた。１９７３年帰国後も全世界を飛び回り活躍中で、２０１２年には新潟市美術館でも展覧会を開催した。絵画だけでなく、小説、詩集なども多数発表している。様々なものを水玉で表現し、それを今も続けている。一貫して同じものを作り続けるということはとても大切なことであり、どの作品を見てもその色使いなどから、一瞬にして草間彌生さんの作品だとわかる。作品のために生きているという、作品に特化したこの生きざまは、まさに挑戦者魂にあふれ、私たちに勇気や元気を与えてくれる」と、その選考理由が語られた。

また、新潟市特別賞について篠田市長は「アコーディオニストのｃｏｂａさんにお贈りする。新潟市とのゆかりについては、３才から14才までを新潟市で過ごし、その頃音楽への興味を抱き、アコーディオンと共に人生を歩むきっかけとなった。高校卒業後イタリアに留学し、帰国後はそれまでのど自慢の伴奏楽器として知られていたアコーディオンを主役楽器にしたいとの思いで活動を開始。伴奏の仕事依頼は一切断ることで80％の仕事を失っても、自らの信念を貫き通して、今までのアコーディオンに対する概念を覆した。世界的に活躍し、今尚アコーディオンで新しい音楽を追及し続ける姿勢は、新しい時代を切り開き、挑戦し続ける安吾の精神を具現している。」と述べた。

授賞式

2015 1/23

東京都内の日本橋公会堂において、出版・報道各社、関係者などを招き、授賞式を開催した。

残念ながら、当日の朝、体調不良のため草間さんが欠席となったが、草間エンタープライズ・高倉功代表取締役が駆けつけ、草間さんから「（授賞式に）行けなくてご免なさい。これからもたくさん良い絵を描きますから、どうぞ許して下さい。」とのメッセージを届けていただいた。

また、小学校、中学校を新潟で過ごしたｃｏｂａさんからも「３歳からの11年間を過ごした新潟。その最初の数年間で近所の音感教室に通って音楽と出逢い、小学４年生の誕生日に父が大好きだったアコーディオンをプレゼントされました。最初はこの楽器が嫌で、しばらく弾くことはありませんでした。しかしその後、初めてアコーディオンを持ってみた時、まるで小動物が胸に吸い付いてくるような感覚と、一音鳴らした瞬間にそれまでピアノやオルガンで味わったことのない、まるでボディソニックのように胸に音が響いたあの瞬間、自分の人生は決まったと思います。」と新潟の地でアコーディオンに目ざめた逸話を懐かしそうに語っていただいた。

その後、新潟市特別賞受賞を記念して、ｃｏｂａさんより渾身のライブ演奏。演奏終了後に、安吾の長男・坂口綱男さんから花束贈呈があった。

記者会見：左から
坂口綱男さん、篠田昭新潟市長、三枝成彰選考委員長

選考委員会：左から
手塚眞さん、齋藤正行副委員長、三枝成彰選考委員長
角川歴彦さん、三好一美さん

出でよ、現代の安吾

第３回 瀬戸内寂聴

第２回 野口健

第１回 野田秀樹

第８回 会田誠

第７回 若松孝二

第６回 荒木経惟

第５回 ドナルド・キーン

第４回 渡辺謙

歴代受賞者

安吾年譜

明治三十九年（一九〇六）十月二十日、父仁一郎、母アサの五男として新潟市西大畑町に生まれる。（本名・炳五）西堀幼稚園、新潟尋常高等小学校（現新潟小学校）へ進む。大正八年県立新潟中学校（現県立新潟高等学校）入学。この頃から学校にもあまり登校せず、ひとり日本海に面する浜辺に寝ころんで空と海と風と波と光とを終日眺め思索した。荒漠たる風と日本海の風景は安吾文学の原風景といえる。

余は偉大なる落伍者となっていつの日か歴史の中によみがえるであろう　大正十一年、中学三年生の九月、落第が決定的となり東京の豊山中学三年に編入。この時、新潟中学校の机のふたに「余は偉大なる落伍者となっていつの日か歴史の中によみがえるであろう」と彫ったという。大正十四年豊山中学を卒業。世田谷下北沢の分教場（現代沢小学校）の代用教員となり自然の中に悪童たちと遊んだ。その体験は『風と光と二十の私と』になる。この頃から求道の厳しさに対する憧れが強まる。

求道者、安吾　大正十五年、東洋大学印度哲学倫理学科に入学。悟りを開くため多くの哲学宗教書を読破、睡眠四時間という厳しい修行生活を一年半続け神経衰弱に陥ったが、それを梵語、パーリ語、チベット語、フランス語、ラテン語などを猛然と勉強することにより克服した。

文壇デビュー　昭和六年一月、処女作『木枯の酒倉から』を発表。五月『ふるさとに寄する讃歌』、六月『風博士』を発表、牧野伸一が激賞。七月『黒谷村』を発表、島崎藤村などが賞賛し、新進作家として文壇に認められる。昭和七年の夏、新進女流作家の矢田津世子を知り烈しいプラトニック・ラブに陥り、安吾は懊悩し酒場のマダムなどと同棲するデカダンスな生活を重ね、四年後ようやく彼女と袂別を決意。昭和十三年、新たな決意のもと執筆した長編『吹雪物語』は酷評され、安吾は自分に絶望し、転居を繰り返し自らを孤独の淵に置きながら、どん底の淪落の生活を送る。しかし『紫大納言』（昭十五）、『木々の精、谷の精』（昭十五）などの新境地をひらく。

小菅刑務所・ドライアイス工場・軍艦に見いだす必然の美　昭和十七年、国粋主義の時代、大胆な『日本文化私観』を発表し、伝統文化を鵜呑みにすることの欺瞞を指摘した。

堕ち切ることにより真実の救いを発見せよ　昭和二十一年、敗戦後の昏迷の中でいち早く戦後の本質を洞察し、四月『堕落論』、六月に『白痴』を発表。この二編は、若者を中心に戦後虚脱していた日本人に強い衝撃を与えた。戦前戦中の倫理観を捨て新たな生き方を指し示す革命的宣言は希望の書となり、『堕落論』によって戦後の日本が再スタートした。昭和二十二年『風と光と二十の私と』、『桜の森の満開の下』、『不連続殺人事件』、『青鬼の褌を洗う女』を発表。

戦う安吾　昭和二十五年、『安吾巷談』を連載し、戦後のタブーに挑戦する。昭和二十六年国税局と税金滞納、差押えをめぐって『負ケラレマセン勝ツマデハ』を発表。税金闘争をひとり戦い抜き、同年九月には競輪不正事件で自転車振興会を相手どり戦う。『夜長姫と耳男』（昭二十七）発表。

急逝　昭和三十年（一九五五）二月十七日、古代史の雄大な構想とともに、原風景に由来する創造活動に意欲を燃やしはじめた矢先に、桐生の自宅で脳溢血で急逝した。享年四十八

安吾賞選考委員

委員長
三枝　成彰
作曲家

副委員長
齋藤　正行
安吾の会世話人代表
新潟・市民映画館シネ・ウインド代表

角川　歴彦
株式会社 KADOKAWA
取締役会長

手塚　眞
ヴィジュアリスト

三好　一美
日本MITベンチャーフォーラム理事
パイロ エンタープライズ代表取締役社長

安吾賞推薦人（敬称略50音順）

青木　邦雄	（公財）東日本鉄道文化財団副理事長
青島　健太	スポーツライター
安斎　　隆	（株）セブン銀行代表取締役会長
稲盛　和夫	京セラ（株）名誉会長／稲盛財団理事長
植村　鞆音	著述業
内田　　力	（株）コロナ代表取締役社長
梅原　　猛	哲学者
岡本　　厚	岩波書店代表取締役社長
荻野　アンナ	作家／慶應義塾大学教授（文学部）
鎌田　　薫	早稲田大学総長
川淵　三郎	（公財）日本サッカー協会最高顧問
北川　正恭	早稲田大学大学院教授
熊澤　敏之	筑摩書房代表取締役社長
小林　幸子	歌手
佐藤　忠男	映画評論家／日本映画大学学長
佐藤　信秋	参議院議員
関川　夏央	作家
高澤　正樹	新潟放送特別顧問／日本文芸家協会会員
武田　鉄矢	海援隊
田中　里沙	宣伝会議編集室長
檀　　太郎	CMプロデューサー／エッセイスト
中山　輝也	新潟経済同友会特別幹事
野沢　慎吾	セコム上信越（株）代表取締役会長
服部　幸應	（学）服部学園理事長／服部栄養専門学校校長／医学博士／新潟市食と花の総合アドバイザー
早野　　透	桜美林大学教授
半藤　一利	作家
火坂　雅志	小説家
福田　勝之	新潟商工会議所会頭
福武　總一郎	（株）ベネッセホールディングス取締役会長
藤沢　　周	作家／法政大学教授
三田 ジョンストン 智子	アルビレックスチアリーダーズ　チーフディレクター
三田村　邦彦	俳優
三潴　末雄	（株）ミヅマアートギャラリーエグゼクティブディレクター
村松　友視	作家
山本　寛斎	デザイナー／プロデューサー

安吾賞賛同者（敬称略50音順）

渥美　千尋	在アイルランド特命全権大使
泉田　裕彦	新潟県知事
内海　桂子	(社)漫才協会名誉会長
ジェームス三木	脚本家
篠田　正浩	映画監督
瀬戸内　寂聴	作家／僧侶
檀　　ふみ	女優
福原　義春	（株）資生堂名誉会長
宮田　亮平	東京藝術大学 学長
（株）旺文社	

肩書きは2014年4月1日現在のものです。

Ango
ANGO Awards
新潟市

■ 安吾賞事務局
〒951-8550　新潟市文化政策課
TEL. 025-226-2563　FAX. 025-230-0450
E-mail　bunka@city.niigata.lg.jp
■ 安吾賞 URL
http://www.city.niigata.lg.jp/info/bunka/ango
■ 坂口安吾デジタルミュージアム URL
http//www.ango-museum.jp